

第三者評価結果の公表事項(児童養護施設)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 旅人とたいようの会

②評価調査者研修修了番号

SK18204 2018-1、SK18122 2006-28、SK18123 2019-5

③施設の情報

名称：児童養護施設 誠心寮	種別：児童養護施設	
代表者氏名：東海 龍明	定員（利用人数）： 50名	
所在地：岐阜県瑞穂市本田1475番地		
TEL：058-326-3618	ホームページ：www.seisinkai1958.jp	
【施設の概要】		
開設年月日 昭和32年7月20日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 誠心会		
職員数	常勤職員： 24名	非常勤職員 8名
専門職員	（専門職の名称）保育士 14名	社会福祉士 2名
	基幹的職員 1名	臨床心理士 3名
	家庭支援専門相談員 1名	管理栄養士 1名
	里親支援専門相談員 1名	栄養士 4名
	個別対応職員 1名	調理師 2名
施設・設備の概要	（居室数） 33	（設備等）
	ワークスペース 3	遊戯療法室 1
	ケアスペース 2	観察室 1
	親子生活訓練室 1	心理検査室 1
	静養室・医務室 1	カウンセリング室 1
	ショートステイ室 1	学習室 2
	調理室 2	医務室 1
	食堂 2	

④理念・基本方針

理念

「平等大悲」仏教精神を基本理念として、下記の8項目を定めている。

- 1、悩む者、苦しむ者、困っている者等、支えや援助が必要である全ての児童並びに児童に関わりのある人々に手を差し伸べ、共に生き合い育ち合う。
- 2、児童は人なり、加えて純粹なり、また次代の担い手である。ゆえに敬い尊ばれる。
- 3、人が人となるには、まわりに人が居なければならない。人が居て人となる。
- 4、心豊かな児童を育てるには、それに合った相応しい環境が必要である。

- 5、物事の争いや解決等に暴力は使わない。暴力は一切許さない。
- 6、大人の姿勢と行動が子どもの人間性を育む。
- 7、職員も経験の差こそあれ、人としての成長過程である。ゆえに共に生き合い育ち合う姿勢が大切である。
- 8、強固な法人の基盤は豊かな財政にあり、法人財政の基盤は後援会にある。ゆえに後援会活動の充実が大切である。

養育方針

- 子どもとの生活を楽しむ ～子どもも楽しく、職員も楽しく～
- 丁寧に関わる ～信じられる大人の存在～
- 子どもの可能性を信じる ～信じる先の言葉～
- 子ども一人ひとりに安心を与える ～自分を大切にし相手を大切にする～
- チームアプローチを原則とした養育の実践 ～施設特性を生かした養育～

⑤施設の特徴的な取組

- ◆住宅地の寺院境内で戦前から託児形式の保育所が前身であり、地域との繋がりは旧来から培い築き上げた実績が大きく、現在は後援会組織として後方支援の力にしている。毎年開催する「ふれあい広場」は、今年はコロナウイルスの関係で中止されたが多くの参加者で賑わう地元の恒例行事にまでなっている。
- ◆ボランティアや学生、各種団体、企業、後援会など幅広い協力者を得て誠心寮の理解者としている。
- ◆「指導の原則」、「求める職員像」が定められ職員のあるべき姿が明快で常に子ども目線で子どもとの関係を重視し子どもの幸せを願いつつ一人の人間として成長発達を育み、家庭復帰や社会的な自立ができるように、職員がチームを組み「ともに生き合い育ち合う関係づくり」に努め、すべての子どもに愛情をそそぎ絆が深まるように「ともに喜び、ともに悲しむことのできる仲間づくり」をめざして取り組んでいる。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年7月6日（契約日） ～ 令和3年5月7日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（平成29年度）

⑦総評

◇特に評価の高い点

〈家庭的養育・支援に近づけようと取り組んでいる〉

敷地内の小規模グループケアに加え、昨年からの分園グループケア地域型ホームを運営している。また本園は子どものグループを幼児から高校生までも異年齢で組み合わせ、食事を共に取るなど、より家庭的な雰囲気的环境を作り養育・支援に取り組んでいる。今後も国の方針に従い分園を増やし本体との関係やそれぞれの役割づくりにビジョンを描いている。

分園の設立にあたり地区自治会に何度も足を運び、施設を理解し受け入れてもらえる

よう説明に力をいれた。今では近所の方から野菜をもらったり挨拶をかわしたりし子ども達も地域の子として受け入れてもらえている。

〈職員の採用と人材育成に力を入れている〉

施設実習からボランティアになり採用された若い職員が多く、子ども達との関りも長く話しやすい存在となり慕われている。人材育成に力を入れ外部研修の報告を内部研修に生かしOJT手法を用いて新人教育やライフストーリーワークの施設内研修に取り組んでいる。一人の職員が抱え込まずチーム内で補完し合うことで、他の職員の良さも認めあえる相乗効果を生んでいる。チームで定期的な話し合いで情報を共有し、支援目標を確認し個々の実践を経て次のステップに移行できるようなPDCAサイクル方式で望んでいる。

〈運営の透明性に取り組んでいる〉

機関紙「えにし」に事業・経営内容が詳しく書かれ、今の社会的養護の課題や誠心会の取り組みなど詳しく記載され、広く関係者に配布されている。ボランティアや実習生・後援会の協力が多く、人的支援外にも金品の寄付も多く寄せられ、地域の子どもは地域で見守り支えたい意向の思いを抱く住民の温かな思いやりで「地域とともに生き合い、ともに育ち合う」姿勢を職員と一緒に作りあげている。

◇改善を求められる点

生育環境や家庭環境の良くない状況から入所してくる子どもで、発達や学習力が低下している子どもに対し、早い段階での学習の支援が必要なので学習指導を繰り返し受ける機会や塾などの活用等の対策を期待する。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回の評価については3回目となるが、評価を受ける度に当施設として「気づき」を大切にし、不足している点について職員で取り組んできたことを高く評価していただいたと感じています。想定していたより高評価をいただけ、当施設としては嬉しく、励みになります。まだ不足している点も多く、出来ていないと感じる点も多々あるので、職員全員で評価を共有し、普段の取組について振り返るとともに、これからどのような取組をすればよいかを一人一人が考え、また組織として方向性を示し機能させていけるようにしていきます、子どもの支援の質の更なる向上をめざしていきたいと思います。

⑨第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。